

岩手県感染症週報

令和4年第30週 (7月25日～7月31日)

岩手県感染症情報センター

第30週の概要

1 類感染症

・患者発生の報告はありませんでした。

2 類感染症

・結核の報告が2例ありました。そのうち1例は潜在性結核感染症でした。

3 類感染症

・腸管出血性大腸菌感染症の報告が12例ありました。本疾患の主な症状は腹痛や下痢、血便ですが、急性腎不全や脳症を引き起こして死に至る場合があります。手洗い（特に用便後）の励行と食中毒予防の3原則（菌をつけない、増やさない、やっつける）が重要です。

4 類感染症

・レジオネラ症の報告が3例ありました。

5 類感染症（全数把握対象疾患）

- ・アメーバ赤痢の報告が1例ありました。
- ・劇症型溶血性レンサ球菌感染症の報告が2例ありました。
- ・梅毒の報告が2例ありました。
- ・水痘（入院例）の報告が1例ありました。

5 類感染症（定点把握対象疾患）

・手足口病は、夏季に幼児を中心に流行するウイルス性疾患で、口の中や手足に水疱性の発疹が現れます。稀に髄膜炎を併発する場合がありますので、高熱や嘔吐などの症状がある場合は速やかに受診しましょう。手洗いは流水と石鹸で十分に行い、タオルの共用を避けることが大切です。

○ 新型コロナウイルス感染症

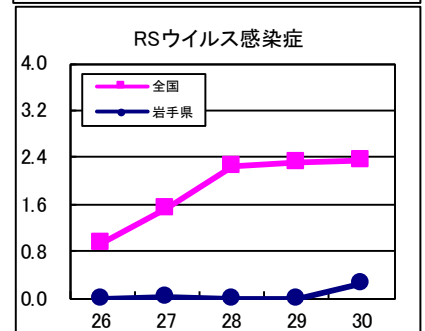
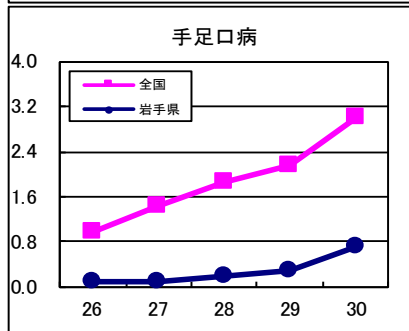
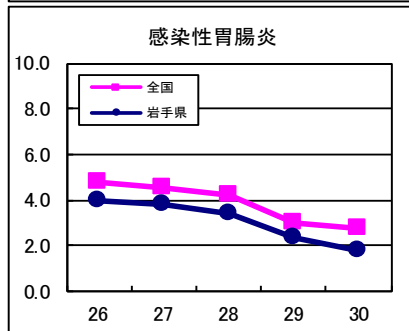
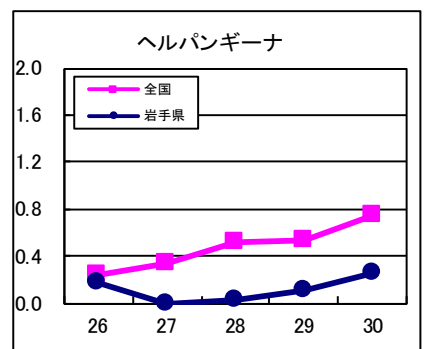
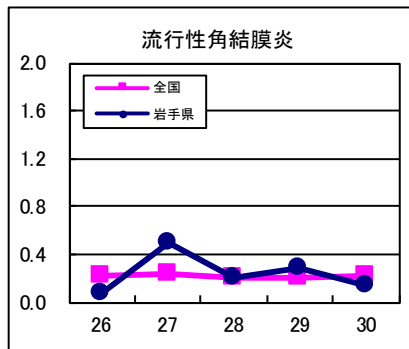
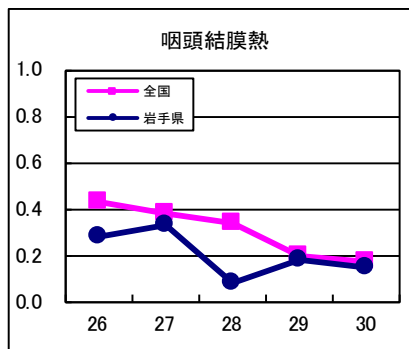
・新型コロナウイルス感染症の新規患者報告数は6612人で、前週比で1163人増でした。場面に応じたマスクの着用、手指衛生、換気、三密回避など基本的な感染対策の徹底は継続しましょう。夏休みやお盆に合わせて帰省、旅行を計画している人は、リスクの高い場面を避けて慎重な行動に留意しましょう。

「岩手県-新型コロナ対策
パーソナルサポート
(@iwatevscovid19)
ID検索またはQRコードか
ら友達追加



最近の注目疾患（定点あたり患者数の過去5週の動き）

(疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意)



定点把握対象疾患 (過去5週の動き)

報告週対応表 <http://www.nih.go.jp/niid/ja/calendar.html>

※2018年1月1日より百日咳が5類感染症 (定点把握疾患) から5類感染症 (全数把握疾患) へ変更されました。
 ※2013年第42週より感染性胃腸炎 (ロタウイルス) が定点把握対象疾患となりました。

(定点あたり患者数)

疾病名	地域	週					流行傾向
		26	27	28	29	30	
インフルエンザ	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00	→
	全国	0.00	0.01	0.03	0.04	0.03	
RSウイルス感染症	岩手県	0.00	0.03	0.00	0.00	0.23	↗ ☆
	全国	0.93	1.51	2.26	2.30	2.35	
咽頭結膜熱	岩手県	0.28	0.33	0.08	0.18	0.15	→ ☆
	全国	0.43	0.38	0.34	0.20	0.17	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	0.38	0.25	0.35	0.43	0.20	→ ☆
	全国	0.33	0.40	0.42	0.26	0.28	
感染性胃腸炎	岩手県	3.98	3.80	3.38	2.40	1.80	↘ ☆
	全国	4.78	4.55	4.22	3.02	2.73	
水痘	岩手県	0.13	0.13	0.03	0.13	0.03	→
	全国	0.09	0.07	0.08	0.07	0.07	
手足口病	岩手県	0.10	0.08	0.20	0.30	0.70	↗ ☆
	全国	0.97	1.42	1.87	2.14	3.01	
伝染性紅斑	岩手県	0.03	0.03	0.00	0.00	0.00	→
	全国	0.02	0.01	0.01	0.01	0.02	
突発性発疹	岩手県	0.40	0.48	0.53	0.45	0.33	→ ☆
	全国	0.41	0.39	0.37	0.30	0.28	
ヘルパンギーナ	岩手県	0.18	0.00	0.03	0.10	0.25	→ ☆
	全国	0.24	0.34	0.51	0.54	0.75	
流行性耳下腺炎	岩手県	0.08	0.05	0.08	0.05	0.03	→
	全国	0.04	0.04	0.04	0.03	0.02	
急性出血性結膜炎	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→
	全国	0.01	0.00	0.01	0.01	0.00	
流行性角結膜炎	岩手県	0.07	0.50	0.21	0.29	0.14	→ ☆
	全国	0.22	0.24	0.20	0.20	0.22	
細菌性髄膜炎	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→
	全国	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	
無菌性髄膜炎	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→
	全国	0.02	0.04	0.02	0.02	0.03	
マイコプラズマ肺炎	岩手県	0.11	0.00	0.00	0.00	0.00	→
	全国	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01	
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→
	全国	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→
	全国	0.01	0.00	-	-	-	
インフルエンザ (入院患者) ※報告数であることに注意	岩手県	0	0	0	0	0	
	全国	0	1	2	3	1	

【流行傾向の見方】

- 無印 : ほとんど患者が発生していません
- ☆ : 患者が発生しています
- ☆☆ : 警報値を超えた地区が1～2地区あります
- ☆☆☆ : 多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患 (過去5週の動き)

※ジカウイルス感染症が2016年2月15日から四類感染症に追加されました。

(患者発生数)

分類	疾病名	(週)					累計	全国	
		26	27	28	29	30		30	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	結核 () 内は潜在性結核感染症患者再掲	5 (2)	0 (0)	3 (2)	1 (0)	2 (1)	63 (28)	215	8409
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	中東呼吸器症候群 (MERS)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H7N9)	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	1
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	0	13
	腸管出血性大腸菌感染症	3	2	1	1	12	36	145	1446
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	10
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	0	5
	E型肝炎	0	0	1	0	0	2	8	258
四類 感染症	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0	0	0	3	50
	エキノコックス症	0	0	0	0	0	0	0	16
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	5
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	1	10
	キャサヌル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	0
	サル痘	0	0	0	0	0	0	2	2
	ジカウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	0	0	0	0	0	0	1	76
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	4
	つつが虫病	0	0	0	0	0	2	1	96
	デング熱	0	0	0	0	0	0	3	23
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1、H7N9を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	6	164
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	1
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	0
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0
	ボツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	1
マラリア	0	0	0	0	0	0	0	11	
野兔病	0	0	0	0	0	0	0	0	
ライム病	0	0	0	0	0	0	0	3	
リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0	
類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	1	
レジオネラ症	1	0	2	0	3	13	59	1069	
レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	0	4	
ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	

全数把握対象疾患 (続き) (過去5週の動き)

(患者発生数)

分類	疾病名	(週)					累計	全国	
		26	27	28	29	30		30	累計
五類感染症	アメーバ赤痢	0	1	0	0	1	3	10	299
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎及びE型肝炎を除く)	0	0	0	0	0	0	1	117
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	0	0	0	0	0	7	18	941
	急性弛緩性麻痺	0	0	0	0	0	0	1	14
	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)	0	0	0	0	0	0	4	171
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	6
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	0	2	99
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	1	2	5	8	433
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	0	10	507
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	1	21
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	0	2	103
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	2	0	4
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	1	0	0	0	4	10	711
	水痘 (入院例)	0	1	0	0	1	3	2	190
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	梅毒	1	0	0	0	2	14	191	6716
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	1	3	86
	破傷風	0	0	0	0	0	0	0	49
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	2	89
百日咳	0	0	0	0	0	2	4	291	
風しん	0	0	0	0	0	0	1	6	
麻しん	0	0	0	0	0	0	1	3	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	1	7	
※ 新型コロナウイルス感染症	561	1500	3594	5449	6612	52029	1407144	10780393	

※新型コロナウイルス感染症として新型コロナウイルス感染症 (令和3年2月13日～)

今注目の感染症

梅毒

梅毒は、感染力が強い『梅毒トレポネーマ』というらせん状の細菌によって引き起こされます。主に、感染している人の病変部 (性器、口唇部、口腔内、肛門等) と直接接触する性行為や疑似性行為により、梅毒トレポネーマが粘膜や皮膚などの傷口から侵入して感染します。

感染後3週間程度の潜伏期間の後に、感染部位にしこりや潰瘍がみられるようになりますが、数週間程度で症状がなくなります (早期顕症Ⅰ期)。その後、治療をせずに数週間～数か月経過すると、病原体が血液によって全身に運ばれ、手のひらや足の裏、体全体に発疹がみられるようになります (早期顕症Ⅱ期)。さらに、感染後数年～数十年経過すると、皮膚や筋肉、骨などにゴムのような腫瘍、心臓、血管、脳などの複数の臓器に病変が生じる場合があります (晩期顕症)。妊娠している人が梅毒に感染すると胎盤を通して胎児に感染し、死産、早産、新生児死亡や奇形が起こることがあります (先天梅毒)。

早期顕症と晩期顕症の間には症状が消える無症候期がありますが、体内には梅毒トレポネーマが残っており、感染を広げる恐れがあります。この無症候期が診断・治療の遅れにつながるため注意が必要です。また、終生免疫は得られないため、再感染する可能性があります。

全国では、2013年以降、報告数が増加傾向に転じています。男女の異性間性交渉での感染が増加しているほか、性風俗店利用者での梅毒の報告数が増加しています。岩手県では、2016年に9例、2017年に16例、以降は2桁の報告数が続いています。

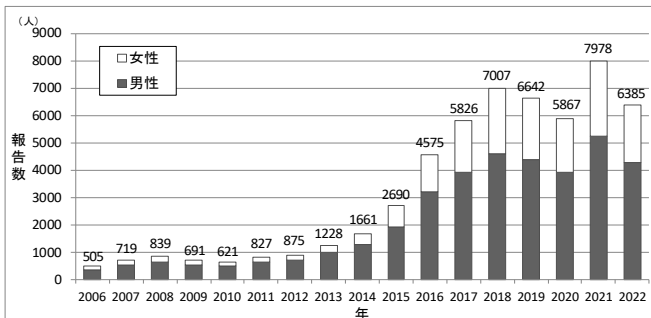


図1 全国の梅毒報告数 (2006年～2022年第29週)

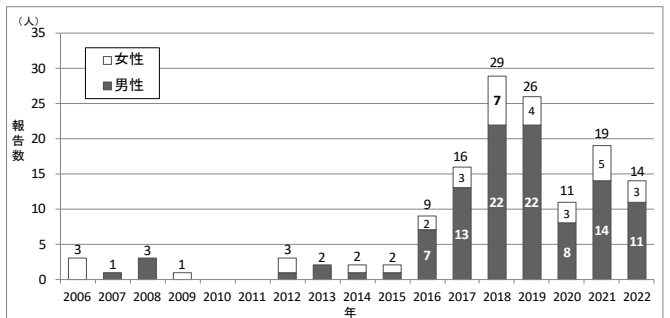


図2 岩手県の梅毒報告数 (2006年～2022年第30週)

梅毒（つづき）

梅毒は早期発見、早期検査、早期治療が重要です。感染が疑われる症状がみられた場合は、早めに医師の診断や治療を受けましょう。また、感染していたことがわかった場合は、周囲で感染の可能性がある人（パートナー等）と一緒に検査を受け、必要に応じて治療を行うことが重要です。

岩手県では、県内各保健所において、匿名・無料で梅毒検査を行っています。他の性感染症も含め、適切な予防対策を取り、症状がみられるなど不安がある場合には、検査や医療機関を受診するよう心がけましょう。

【参考】

- ・梅毒とは（国立感染症研究所）
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/465-syphilis-info.html>
- ・梅毒に関するQ&A（厚生労働省）
https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekaku-kansenshou/seikansenshou/qanda2.html
- ・梅毒検査について（岩手県）
<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/iryou/kenkou/aids/1003196.html>

今注目の感染症

つつが虫病

つつが虫病は、つつが虫病リケッチアを保有するツツガムシの幼虫に吸着されることで感染します。ツツガムシはダニの一種で、野山、田畑及び河川敷などに生息しています。ツツガムシは一世代に一度だけ、卵から孵化した後の幼虫期に哺乳動物に吸着し、組織液を吸います（図1）。潜伏期間は5~15日間で、主な症状は高熱（38~40℃）、発疹、頭痛で、ツツガムシによる刺し口（写真1）があることが特徴です。つつが虫病は、治療が遅れることで重症化・死亡することもあるため、疑わしい症状が出た際は早期に受診し、野外活動（農作業や山菜取り、山や河川でのレジャー等）について医師に伝えることが重要です。

全国的には5~6月と11~12月に患者が増加しますが、東北では雪解け後の5~6月に患者が多くなります。岩手県では、2020年に3例（6月1例、8月1例、10月1例）、2021年に8例（4月1例、5月4例、6月2例、7月1例）の報告がありました。2022年は第20週に1例目、第23週に2例目の報告があり、野外活動の際には注意が必要です。

つつが虫の予防には、吸着を防ぐことが最も重要です。病原体を持ったツツガムシの幼虫が、衣服の隙間等から体表面の柔らかい部位（わきの下、内股、陰部、下腹部など）にたどり着き、体液を吸うことで感染します。一方、ツツガムシの幼虫が取り付いてから吸着するまでに6時間以上かかるとされています。これらのことから、野外活動の際には、以下の対策をとるよう心がけましょう。

- ①長袖、長ズボンに足首までを覆う靴を履き、素肌をさらさないこと
- ②ディートまたはイカリジンを含有した虫よけ剤を使うこと
- ③帰宅後はすぐに入浴、洗濯をすること

【参考】

- ・ツツガムシ病とは（国立感染症研究所）
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/436-tsutsugamushi.html>

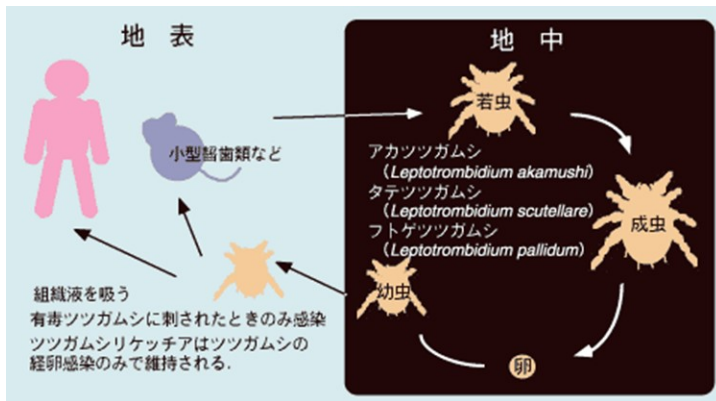


図1 ツツガムシの生活環（国立感染症研究所HPより）

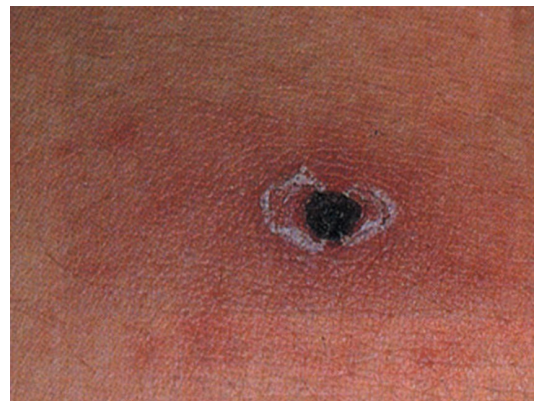


写真1 ダニの刺し口（国立感染症研究所HPより）

今注目の感染症

腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症は、ベロ毒素 (Vero toxin = VT、またはShiga toxin = Stx と呼ばれる) を産生する大腸菌 (図1) によって引き起こされる感染症です。症状は、無症状から軽度の下痢、激しい腹痛、頻回の水様便、著しい血便と様々です。更に、溶血性尿毒症症候群による腎不全や脳症などの重篤な合併症を引き起こす場合もあります。

岩手県では、例年夏季を中心に報告数が増加します (図2)。2022年第30週までに36例 (盛岡市9例、県央地区5例、中部地区2例、奥州地区6例、一関地区7例、大船渡地区5例、釜石地区1例、二戸地区1例) の報告がありました。第30週の地区別報告数は図3のとおりです。原因となった大腸菌のO群種別にみると、O157が8例、O26が2例、その他が18例です。年齢層別にみると10歳未満が8例で最多となっています (図4)。

予防対策として、食中毒予防の3原則 (食中毒菌をつけない、増やさない、やっつける) を徹底し、生肉や加熱不十分な肉を食べないことが重要です。また、ヒトからヒトへの二次感染を防ぐため、食事の前やトイレの後などには石けんと流水による手洗いを行うことが重要です。

【参考】

- 腸管出血性大腸菌感染症とは (国立感染症研究所)
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/439-ehc-intro.html>
- 腸管出血性大腸菌Q&A (厚生労働省)
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000177609.html>



図1 腸管出血性大腸菌O157:H7の電子顕微鏡写真 (15,000倍)
 -国立感染症研究所HPより-

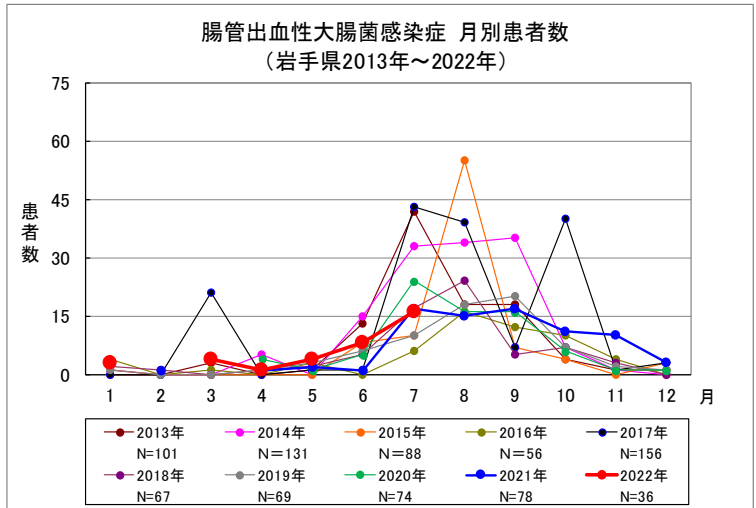


図2 岩手県の過去10年の月別発生状況 (2013年～2022年第30週)

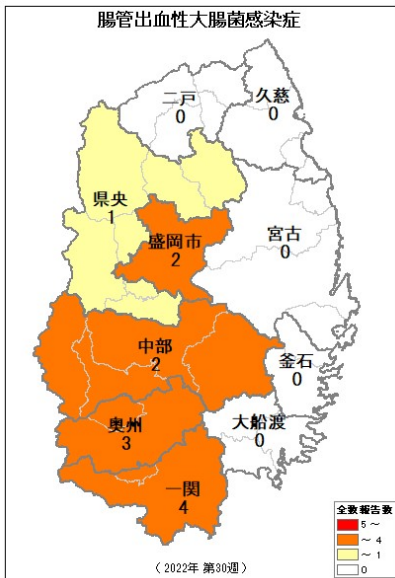


図3 第30週の保健所管内別の状況

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報 (行政区域データ)」をもとに岩手県が編集・加工した。
 ※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の 数値地図 (国土基本情報) 電子国土基本図 (地図情報) を使用した。(承認番号 平29情使、第675号)

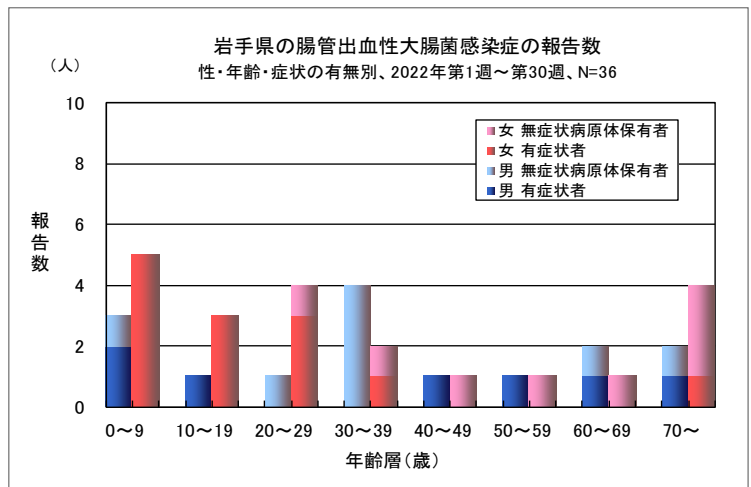


図4 岩手県の年齢性別発生状況 (2022年第1週～第30週)

今注目の感染症

新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルス感染症は、コロナウイルス科ベータコロナウイルス属の新型コロナウイルスによる急性呼吸器症候群です。令和3年2月13日に指定感染症から新型インフルエンザ等感染症になりました。

国内の発生状況は図1 (厚生労働省HPより)のとおりです。岩手県では、県内初の報告が2020年7月29日に2例あり、2020年は394例、2021年は3101例の報告がありました。2022年は第30週までに52029例が報告されています。予防には、咳エチケットや手洗いなど普段からの感染症予防対策に努めていただくとともに、「3つの密」(換気の悪い密閉空間、人が多数集まる密集場所、間近で会話や発声をする密接場面)を避けるようにしましょう。

環境保健研究センターで行っている新型コロナウイルスのPCR検査件数と陽性件数の推移、岩手県の新型コロナウイルス陽性者の年齢層別は図2および図3のとおりです。

当センターにおける検査は、2020年2月上旬から開始しました。2022年第9週の検査件数は1138件で開始以来の最多になり、第30週は707件でした。

図1 全国の新型コロナウイルス新規陽性者数(～8/2)

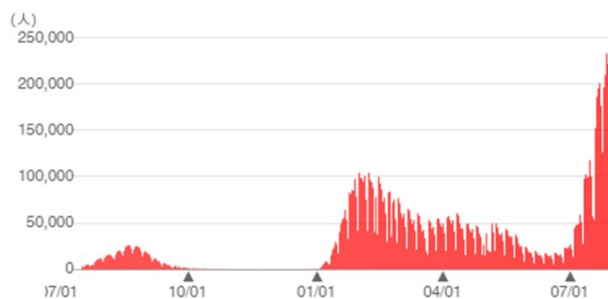


図2 岩手県における新型コロナウイルス感染症の報告数 性別年齢層別 2022年第1週から第30週現在、N=52029

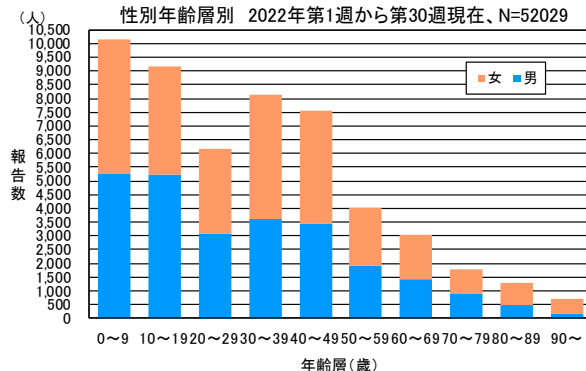
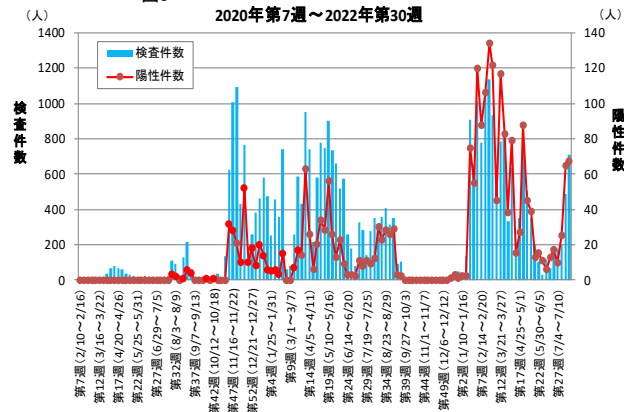


図3 週別新型コロナウイルス検査件数(人) 2020年第7週～2022年第30週



<<<岩手県の電話相談窓口>>>

○受診・相談センター (コールセンター)

受付時間 24時間 全日 (土日・祝日含む)

TEL:019-651-3175 FAX: 019-626-0837

- ①発熱等の症状が生じた場合は、まず「かかりつけ医」に電話でご相談ください。
- ②相談先に迷う場合や「かかりつけ医」がない場合は、「受診・相談センター」にご相談ください。
- ③①または②での紹介・案内に従い、「診療・検査医療機関」を受診してください。

詳しくは、岩手県の新型コロナウイルス感染症のホームページを御覧ください。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/iryuu/covid19/index.html>

また、新型コロナウイルス感染症の最新情報については、厚生労働省及び国立感染症研究所のホームページで随時更新されています。ご確認をお願いします。

◆参考

新型コロナウイルス感染症について－厚生労働省－

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

新型コロナウイルス (2019-nCoV)関連情報について

－国立感染症研究所－

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/2019-ncov/9324-2019-ncov.html>

集団感染情報

- ・この週には集団感染情報はありません。

病原体検出情報

- ・感染性胃腸炎の患者の吐物から、サポウイルスGI.1を1件検出しました。
- ・感染性胃腸炎の患者の糞便から、サポウイルスGI.1を4件、ノロウイルスGII.4を1件、ノロウイルスGII.2を5件それぞれ検出しました。



医療機関からの情報

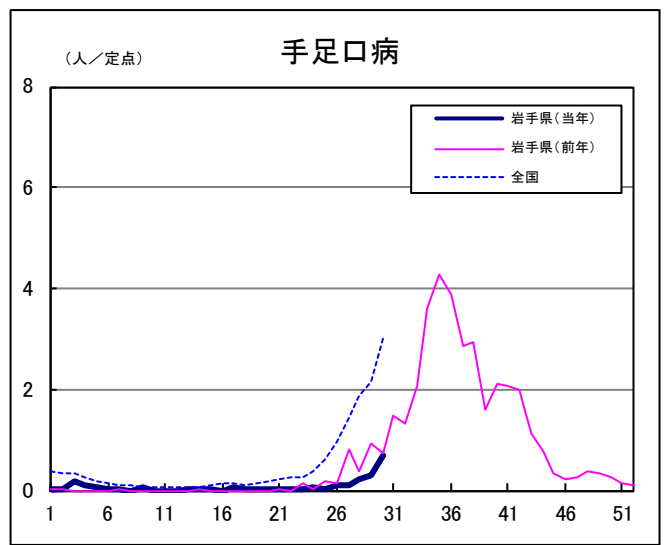
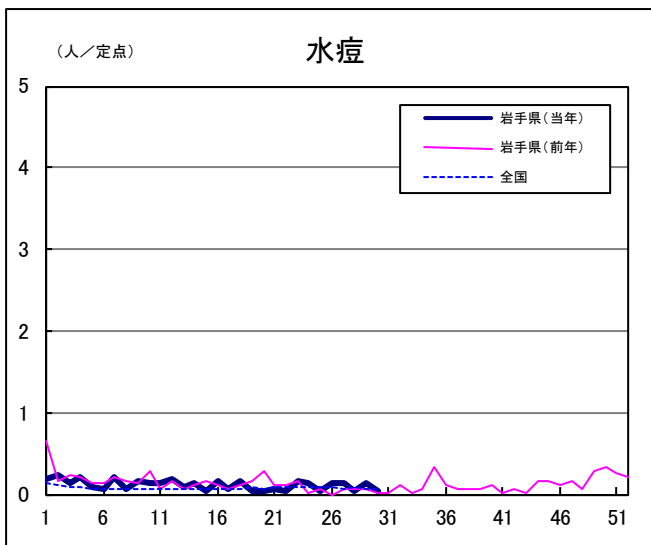
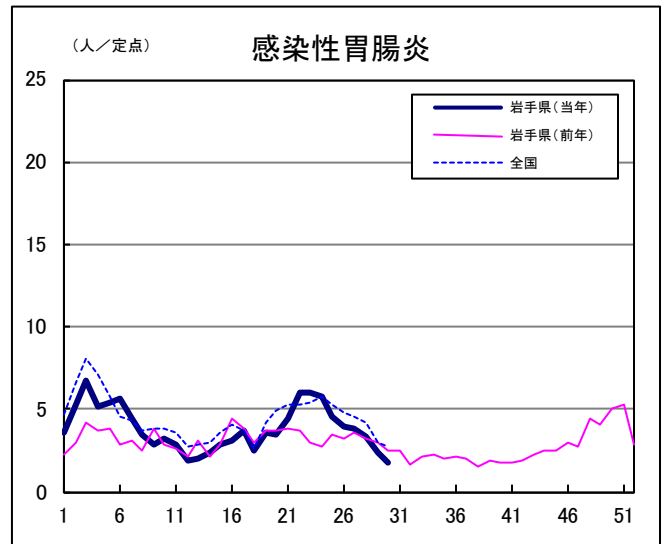
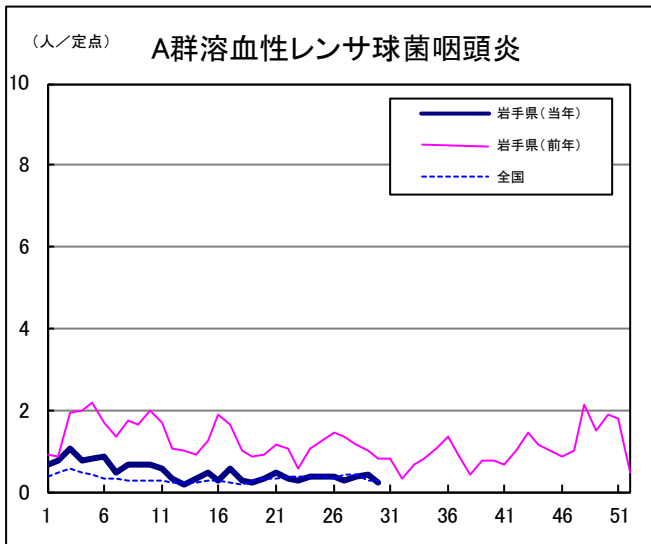
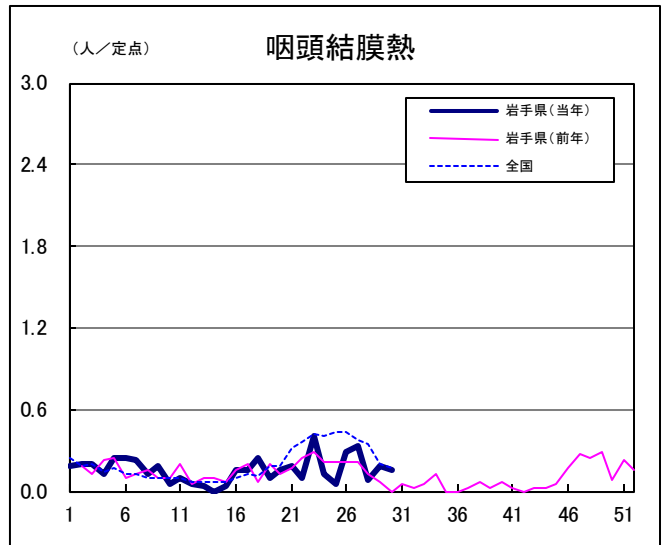
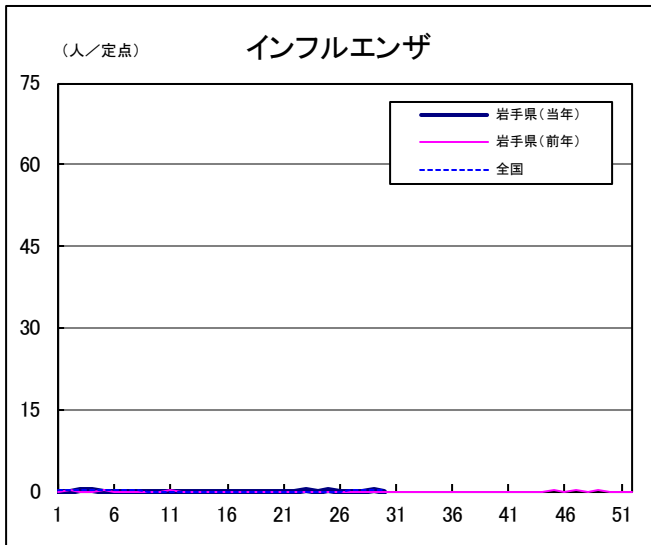
- ・この週には医療機関からの情報はありません。

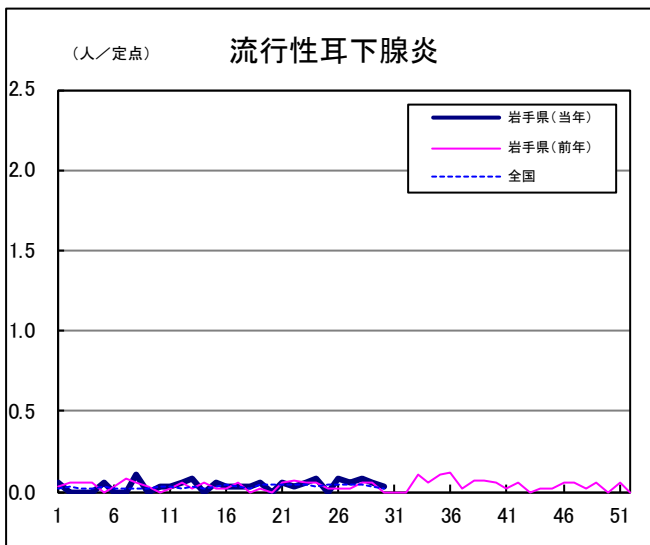
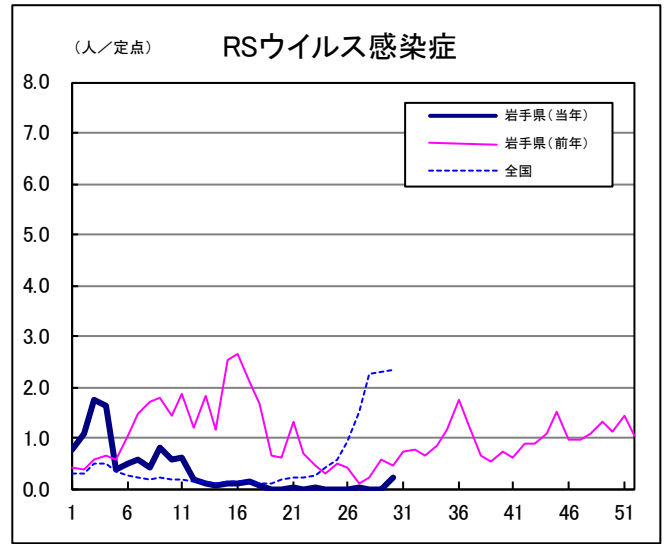
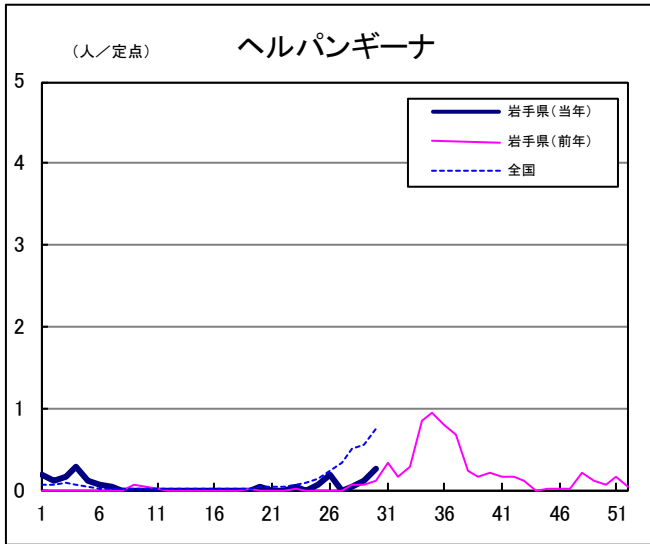
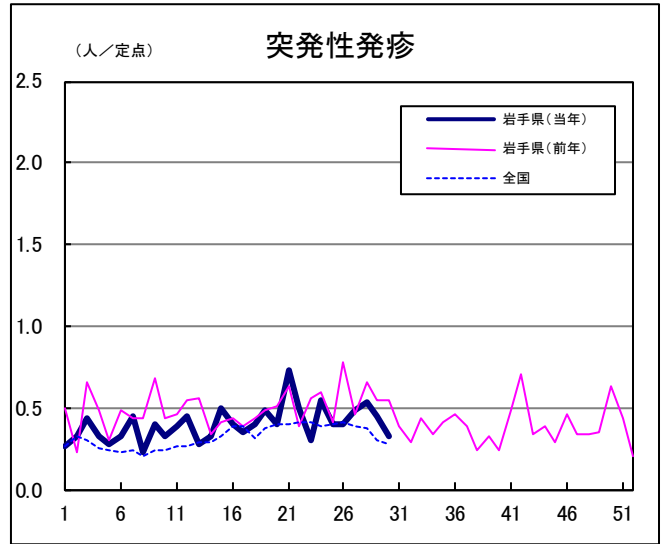
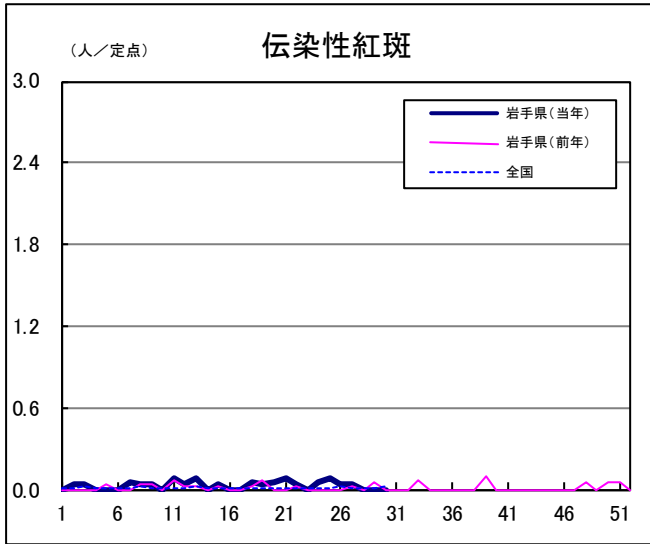
Q & A

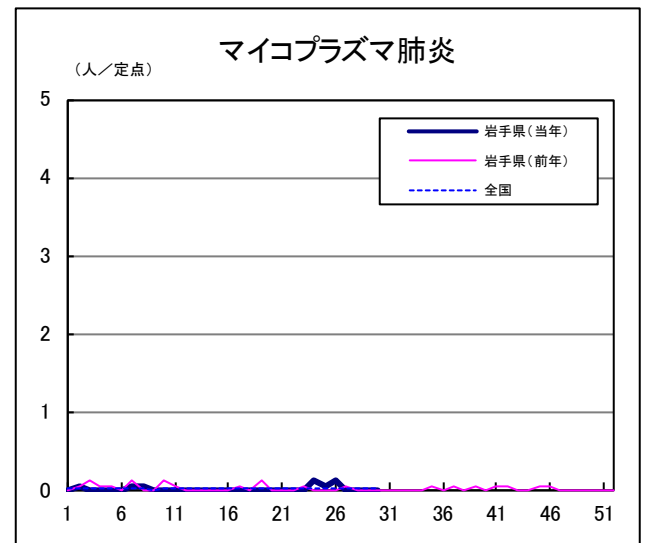
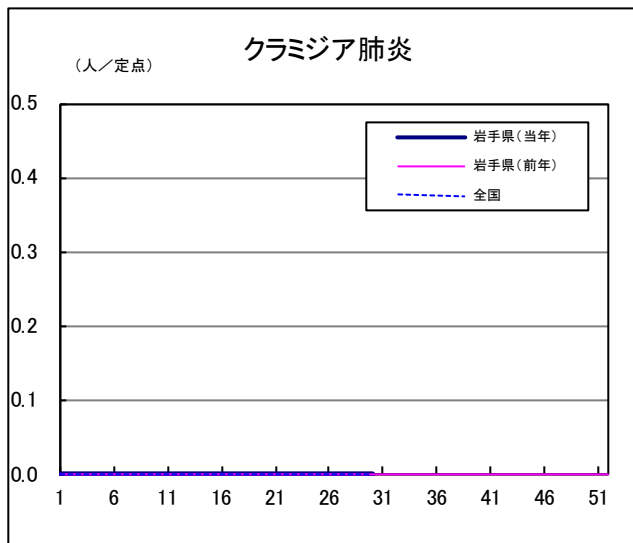
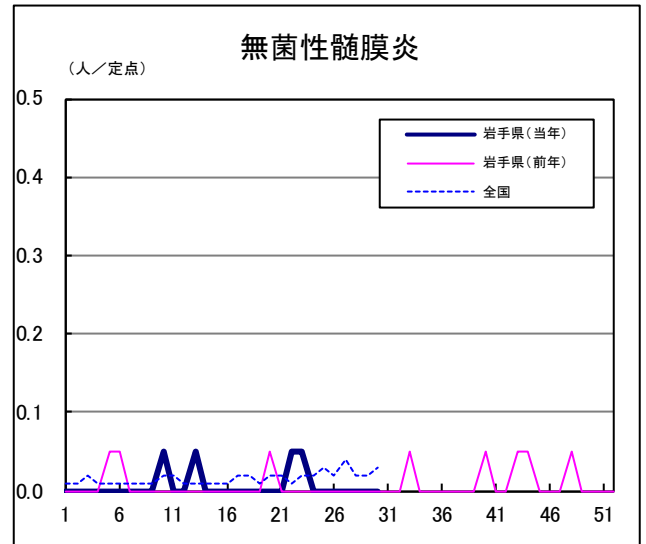
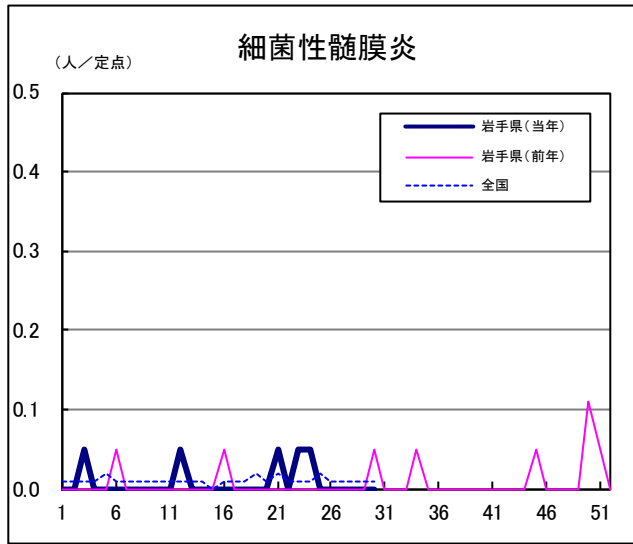
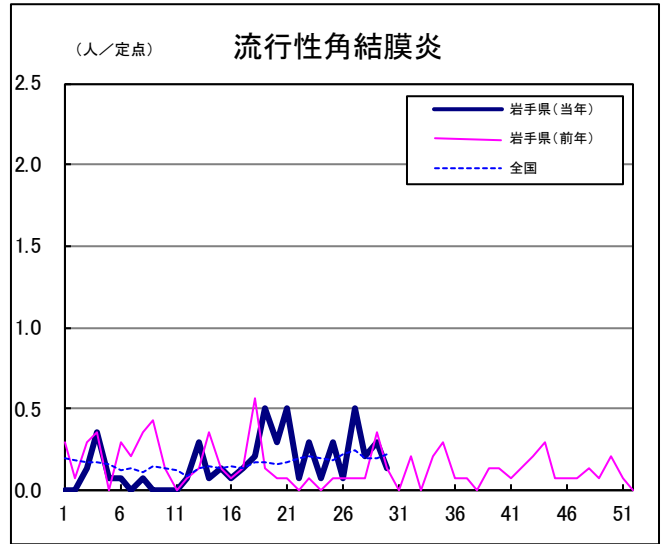
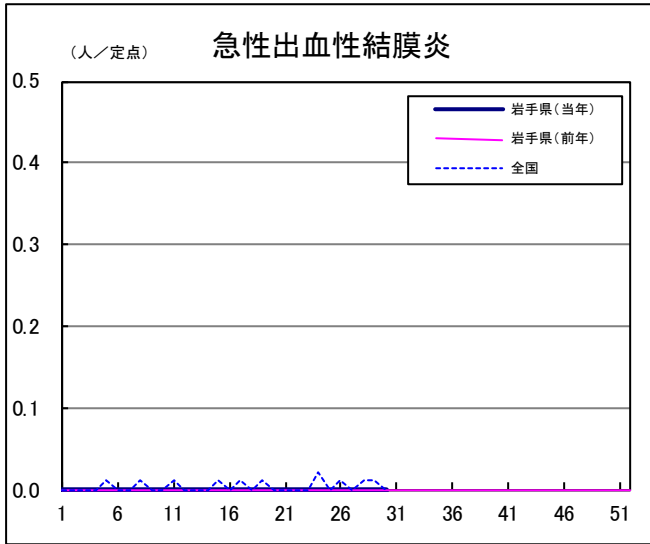
読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。
岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667
E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

疾病別グラフ (定点あたり患者数の推移)







定点医療機関の数

地区	定点種別	インフルエンザ	小児科 定点	眼科定点	基幹定点
岩手県		63	40	14	19
盛岡市		11	7	3	4
県央		9	6	2	1
中部		10	6	2	4
奥州		7	4	1	2
一関		7	4	1	2
大船渡		5	4	1	1
釜石		3	2	1	1
宮古		5	3	1	1
久慈		3	2	1	1
二戸		3	2	1	2



無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 令和4年第30週 令和4年8月5日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査委員会

発行：岩手県環境保健研究センター
岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター
(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

URL: <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<https://www.pref.iwate.jp/soshiki/hofuku/1016013.html>

<岩手県保健福祉部医療政策室>